

---

---

# IP リエゾンと発明者との二人三脚による 特許生産活動のあり方

富士通エフ・アイ・ピー株式会社

---

## ■ 執筆者 Profile ■



1975年 富士通ファコム株式会社入社  
(現富士通エフ・アイ・ピー株式会社)  
FM 事業部 信販業務担当  
1980年 教育部 教育業務担当  
1985年 教育システム部 CAI 開発業務担当  
1994年 VAN システム部 ISO9000 担当  
1996年 EDI システム部 知的財産権担当  
2001年 流通システム部 卸業務担当

三好 隆生

## ■ 論文要旨 ■

多忙な発明者（特に断らない限り、「開発者」と同一人物）と IP リエゾンとの二人三脚による、公知調査から特許抽出、機能ブラッシュアップ、弁理士ヒヤリング、および特許出願に至るまでの、IP リエゾンの効果的支援方法を紹介する。

公知調査では、日常的に開発者とコミュニケーションを密に行い、新技術の取組みを、逸早くキャッチするような環境作りと意識改革が必要である。本論文では、特許抽出で、「か行五段活用」を念頭に置き、機能ブラッシュアップで、「発想 100 本ノック」を適用したブレインストーミングによる独自の「特許生産 WG」方式のポイントを、具体例を通じて述べる。

現場の IP リエゾンの方達が、「特許抽出」から「特許出願」まで、発明者に対して如何に接し、特許生産活動を実施すればよいか解決策のヒントを提示する。

## ■ 論文目次 ■

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| <u>1. はじめに</u> .....        | 《 3》  |
| <u>2. 特許生産活動の経験則</u> .....  | 《 3》  |
| 2. 1 特許生産活動の心得              |       |
| 2. 2 アイデアの発掘方法              |       |
| 2. 3 特許生産意識の向上策             |       |
| <u>3. 特許抽出手順</u> .....      | 《 6》  |
| <u>4. 特許抽出作業工数</u> .....    | 《 7》  |
| 4. 1 見積フローチャート              |       |
| 4. 2 適用事例                   |       |
| 4. 3 各係数の設定根拠               |       |
| <u>5. 特許生産WGの運用手順</u> ..... | 《 9》  |
| 5. 1 特許生産WGの参加条件と対象業務       |       |
| 5. 2 「発想100本ノック記入シート」の作成    |       |
| 5. 3 特許生産WG実施手順             |       |
| 5. 4 「か行五段活用」               |       |
| <u>6. 今後の課題</u> .....       | 《 11》 |
| 6. 1 特許管理システムの整備            |       |
| 6. 2 当面の課題                  |       |
| 6. 3 人材育成                   |       |
| <u>7. おわりに</u> .....        | 《 12》 |

## ■ 図表一覧 ■

|                           |       |
|---------------------------|-------|
| 図1 特許抽出手順 .....           | 《 6》  |
| 図2 工数算出の見積フローチャート.....    | 《 7》  |
| 図3 「作業内容別担当者別工数一覧」 .....  | 《 8》  |
| 図4 「発想100本ノック記入シート」 ..... | 《 10》 |

## 1. はじめに

コンピュータ業界に限らず、産業界では、「知的財産権」に関するニュースが、毎日のように報道されている。各企業の経営者層は、「知的財産権」の重要さは認識されてはいるものの、専門の部署や専任の知的財産要員を持たない企業は多い。

当社は、1999 年から、知的財産権に係る活動は、独立型で推進しているが、今後は、IP リエゾンの役割が重要な鍵となると予想される。

このような現状において、小生の論文が少しでも、現場で働く、IP リエゾンの活動のヒントになれば、甚だ幸いである。

なお、IP とは、Intellectual Property（「知的財産」の英訳）の頭文字を示す。また、IP リエゾンとは、発明者と協力して、特許生産活動を中心とした知的財産に関する活動を行う知的財産要員のことを示している。

## 2. 特許生産活動の経験則

特許係、IP リエゾン、IP マネージャーと呼び方は変遷したが、私は、知的財産権担当として約 10 年経験した。まず、そこで得られた経験則を述べる。

### **2. 1 特許生産活動の心得**

#### 2. 1. 1 現場展開の際は、新規性・進歩性の意識格差を考慮せよ

特許法 29 条 1 項にて「新規性」、同法 29 条 2 項にて「進歩性」が求められている。かたや、発明者（特に断らない限り、「開発者」と同一人物）に話かけても、「特許に値する物がない」、「業務多忙で、それどころではない」といった返事が返ってくる。IP リエゾンや IP マネージャー、など、特許生産活動を推進する者（以下、IP リエゾンと表現）には、大変苦慮される。

私は、「2・3分、時間を割いてくれ」、「改善点・工夫点はないか」、あるいは、「時間をかけて作成した仕様書を見せてくれ」といって、アイデアの候補を探し、キャラバンを行った。当初から、「新規性」や「進歩性」を、全面に出すのは好ましくない。現場で、肩の力を抜いて、発明者との意識格差をなくし、自然に特許発掘に入っていける雰囲気を作る必要がある。

#### 2. 1. 2 部門サーバでのアイデア一括管理により、抽出会のチャンスを増やせ

現代は正に、ユビキタス「いつでも・どこでも・どの装置でも」であるが、そこまで行かないにしても、作業場所に居て、アイデアが閃いたときは、「いつでも・どこでも・どの装置（手段）でも」入力できるよう、特許候補アイデアを excel シートにて管理し、excel シートを部門共通ファイルサーバにて情報共有するとよい。更に、VBA マクロにより、「アイデアメモ」を自動で作成する仕組みを作るとよい。これらにより、アイデアが閃いたとき、発明者が excel シートに入力するとアイデアメモが自動で作成される。つまり、発明者にとって毎日が「アイデア抽出会」となる。また、発明者と IP リエゾンとの接点が増え、効率的に成果物ができて行く。

そして、IP 事務局への報告の際にも、必要に応じ、excel シートを添付し、「アイデア一覧表」を提示することで、網羅的に説明できる。更に、現在では、当社の業務シス

テムの案件管理ツールを使用し、Web上で、excelライクな仕組みに移行し、使い勝手が良くなっている。

### 2. 1. 3 IPリエゾンと発明者との共同出願も視野に入れよ

特許出願までの道程は、アイデアメモ作成、1次的に行う公知調査・分析（直感により類似性の度合いを判断）、特許生産ワーキンググループ（以下、特許生産WG）、明細書原稿作成、2次的に実施する公知調査・分析（1次的に実施し、直感で判断した内容の裏付けを取ることで、1次調査からの時間経過による現時点の類似性の度合いを判断する）、IPリエゾン・発明者・弁理士の三者ヒヤリング、特許明細書作成、社内手続、など、なかなか険しい。発明者単独では、挫折しかねない。

そこで、IPリエゾンと発明者との共同出願から始めるのも、一法である。因みに、私に関与した、2005年10月現在の出願実績の内訳では、共同発明が大半を占める。（全体=21件のうち、単独発明=4件、共同発明=17件）

### 2. 1. 4 幹部社員から発明者への動機付け、会議体、対面コミュニケーション、電子掲示板、e-mail、紙によるメモ、など、推進・連絡手段は、多角的に活用せよ

一部の発明者からは、「しつこい奴だ」と疎んじられていると思うが、前述の推進・連絡手段を、多角的に活用し、執拗に通知している。IP強化月間締切直前には、特に連絡を繰り返した。その甲斐もあって、ある年の強化月間（7月～9月）のアイデアメモ件数は、目標=16件に対し、実績=42件となった。

強化月間評価の際には、「しつこい奴だ」と思われていたであろう発明者からも、お礼を言われたのは嬉しかった。

### 2. 1. 5 目標管理評価制度による目標設定時・目標評価直前は、発掘の絶好のチャンスと認識せよ

IP強化月間では、目標管理評価制度における目標として、「特許生産」を設定している人を優先的に支援した。個人単位に、発掘のためのキャラバンを実施したケースもある。そんなおり、ある課長のグループは、全員が目標設定していることが分り、制度対象外の人に対しても、同様のキャラバンを実施した。成果は、前述のとおりである。

## 2. 2 アイデアの発掘方法

### 2. 2. 1 アンテナを張り、「〇〇特許」、「△△モデル」、に対し、即反応できる体質を造れ

私事で恐縮であるが、今から25年前、「パソコン」に興味を持ち始めて、夢中だった頃、「パソコン」と聴くと体が反応していた。当時の部長に連れられ、ラジオ会館（秋葉原）の「ビットイン」に行き、「小さな巨人」を知った。間もなく、パソコンに没頭し、ネオンサインを見ても「パソコン」の文字が、「拡大され、着色され、更に、点滅して」見えるようになった。

最近では、「〇〇特許」や「△△モデル」と見聞きすると、目や耳が反応する体質になった。時々、知的財産権関係の本を読んでいて没頭し、列車を乗り過ごすこともある。この

ように常日頃、特許に対するアンテナを高くしておくことが必要である。

## 2. 2. 2 インターネット、マスメディア、情報センタ、社外セミナー、人脈、どんどん活用せよ

今や、インターネットは、世界中の図書館を机上に持って来てくれた。更に、ブロードバンド時代になり、安価で常時接続された、高品質大容量のデータ伝送が可能となり、マルチメディア化、多チャンネル化、更にユビキタス化されたビジネスモデルが、どんどん出現している。「どらえもん」のアニメに出てくる「どこでもドア」が机上にやって来た。帰宅して、TVのチャンネルを捻れば、毎日のように「知的財産ナニガシ」のニュースが飛び込んでくる。

また、社外セミナーの案内も、筆者のメールアドレスへ届き、先着順の場合は、その場で申込み、上司へも転送することで、業務に差し支えなく、予算内であれば、基本的に承認してもらえる。参加報告は、翌々営業日までには書上げ、関係者にメール、及び電子会議室・掲示板にアップしている。

日経BP記事検索サービスも法人契約をしており、自由に使用できる。

特許庁の電子図書館にしても、朝早いうちと夜は、レスポンスを気にすることなく使用できる。ダウンロード中は、文書編集などの別作業を行う、など、工夫すれば、特許庁DBから出願事例の抽出作業はダウンロードと並行して、できてしまう。

## 2. 2. 3 老若男女、異業種で働く人達と、積極的に交流せよ

自分なりに、色々工夫していても、いつの間にか固定観念で、知的財産業界を見てしまう。そんな時、社内・社外を問わず、老若男女、異業種で働く人達と情報交換すると、新たな発見をする場合がある。「柔軟な頭脳」と「感度のよいセンサー」とを養っておこう。

## 2. 3 特許生産意識の向上策

### 2. 3. 1 自分なりの「スローガン」を持ち、自己暗示にかけよ

「自分がやらねば、誰がやる」、「自部署のため、自社のため、社会のため、貢献しよう」、など、特許生産意識が向上されるものは、何でもよい。

### 2. 3. 2 1日に1回は、何も考えない、「くつろいだひと時」を持つ

ご存知のとおり、「アルキメデスの原理」は、彼が風呂に入ってくつろいでいる時、「何故、風呂水はじっとしているのだろう。自分自身（水）の重力と同じ浮力が働いているからだ。」と考えたそうである。また、「ニュートンの万有引力の法則」も、彼が昼寝をしていて、林檎が木から落ちるのを見て、「何故、林檎は地球に落ちるのだろう。見方を変えると、地球が林檎に落ちたとも言えるではないか。」と考えたそうである。

偉大な発明は、くつろいだひと時である入浴中や昼寝時間に、発見されている。1日に1回は、何も考えない、「くつろいだひと時」を持つことで、発明への契機が増大する。

### 2. 3. 3 「何故、特許出願するのか」（特許出願することの、メリットは何か）

俗物的な話をさせていただくと、特許出願することで、どうなるか。出願後、1.5年経過すれば、特許庁の電子図書館のサイトで公開される。電子図書館が存続する限りは、特

許 DB に、未来永劫残るわけである。

一方、出願人は、発明者の在籍する法人名になる。当社事例では、発明者が権利を会社へ譲渡し、数万円程度の出願補償金が会社から発明者に支払われる。

### 3. 特許抽出手順

「アイデアメモ作成」から「特許庁へ出願」までを図1を用いて説明する。

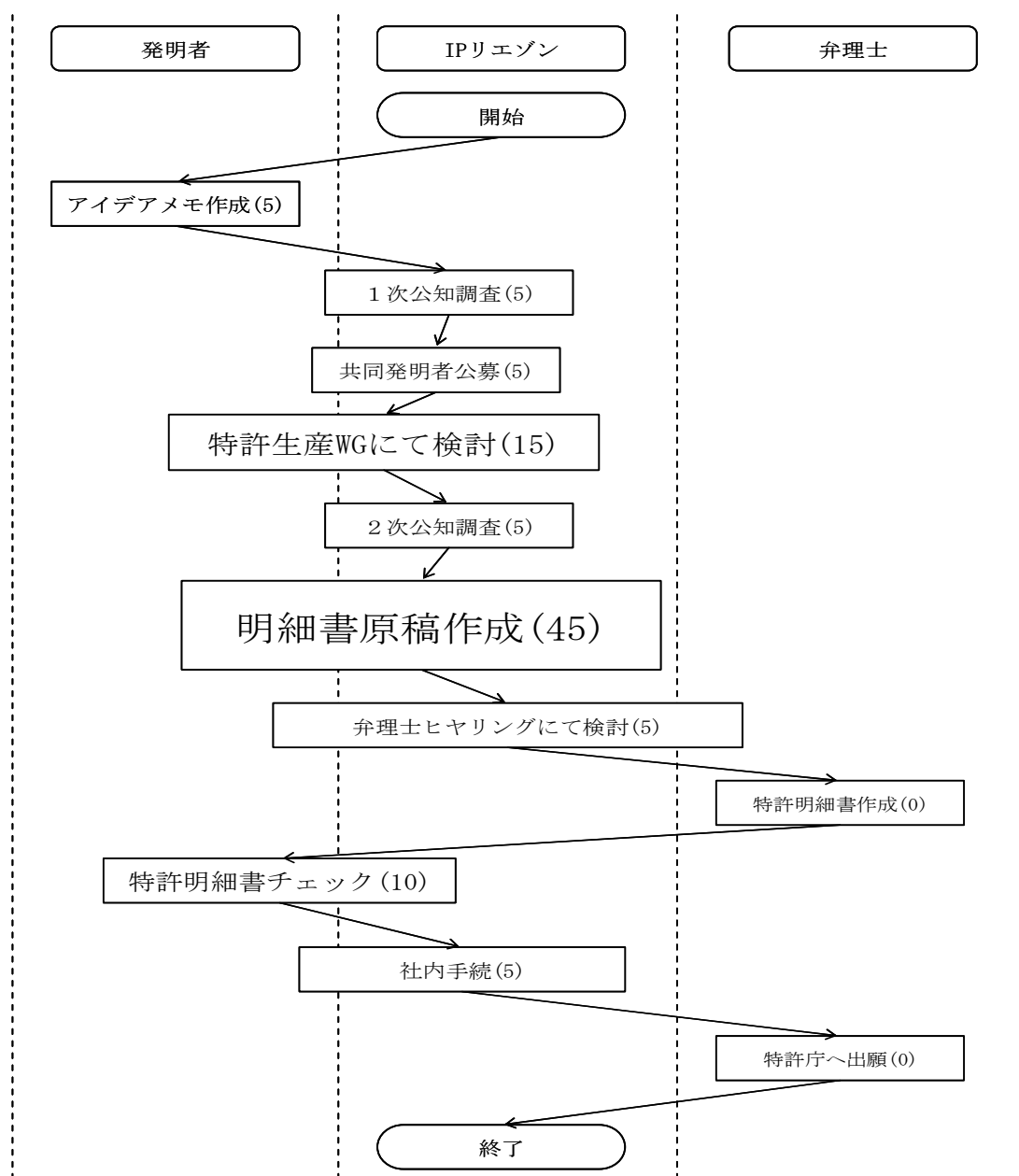


図1 特許抽出手順

縦軸は、上から下へ向かって、作業項目・内容の遷移を示している。横軸は、これらボツ

クスで記載された作業のうち、左側の列から「発明者」、「IP リエゾン」、「弁理士」が担当することを示す。また、左右の振れにより、担当者の加担割合（作業負荷）を示している。つまり、「アイデアメモ作成」以外の作業は、共同作業を意味する。なお、（ ）内の数字は、「発明者」と「IP リエゾン」の作業全体を 100 とした場合の、個々の作業割合（概算値）を示す。また、作業負荷の高低は、ボックスの枠や文字の大小で表現している。

## 4. 特許抽出作業工数

特許抽出作業の工数はアイデア毎に異なるため、見積をせずして着手する傾向がある。長期的に考えた場合、できるだけ効率よく作業を行うためにも見積後実施すべきである。

### 4.1 見積フローチャート

特許抽出作業における工数算出の見積フローチャートを図2に示す。

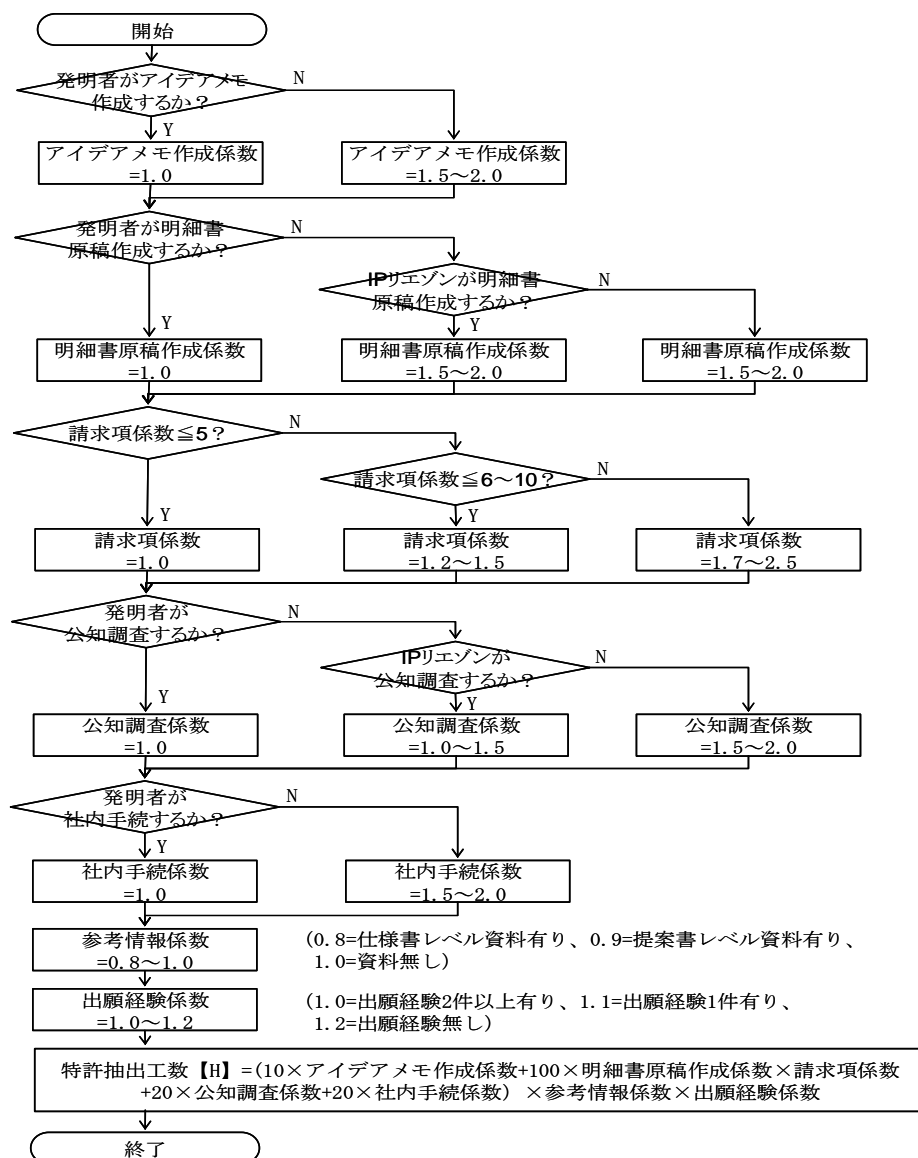


図2 工数算出の見積フローチャート

#### 4. 2 適用事例

アイデア抽出から特許出願までの作業実績から前述の「工数算出の見積フローチャート」を適用し、妥当性を検証してみる。

##### 4. 2. 1 工数算出のための前提条件

- (1) 「UI 設計書, ジョブフロー, ○○情報端末マニュアル, あり」
- (2) 発明者 (計 6 名), 内訳: 開発者 (2 名), IP リエゾン (1 名), 顧客 (3 名)
- (3) 支援者, IP 事務局 (計 4 名), 内訳: IP リエゾン (3 名), 特許係 (1 名)
- (4) 工数算出期間: 特許抽出から出願まで
- (5) 社内手続 (承認申請・出願依頼・評価票) の工数は除く
- (6) 個人の時間 (自宅) で発生した工数は含める

##### 4. 2. 2 作業内容別担当者別工数一覧 (単位 H)

| 項番 | 作業内容      | 開発部署 |     |      |        |       | 事務局  |        |     |      | 全体計   |
|----|-----------|------|-----|------|--------|-------|------|--------|-----|------|-------|
|    |           | 開発者  |     | 開発者計 | IPリエゾン | 部署計   | K部長  | IPリエゾン | 特許係 | 事務局計 |       |
|    |           | Tさん  | Sさん |      |        |       |      |        |     |      |       |
| 1  | アイデア作成    | 1.0  |     | 1.0  | 2.5    | 3.5   | 8.5  | 3.0    | 1.0 | 12.5 | 16.0  |
| 2  | 公知調査      | 1.0  |     | 1.0  | 10.0   | 11.0  | 2.0  |        |     | 2.0  | 13.0  |
| 3  | 明細書原稿作成   | 9.0  | 3.0 | 12.0 | 61.0   | 73.0  | 8.0  | 3.0    | 1.0 | 12.0 | 85.0  |
| 4  | 弁理士ヒヤリング  | 2.0  |     | 2.0  | 1.5    | 3.5   | 1.5  | 2.5    | 1.0 | 5.0  | 8.5   |
| 5  | 修正&最終チェック | 2.0  | 1.0 | 3.0  | 15.0   | 18.0  | 10.0 | 3.5    | 1.0 | 14.5 | 32.5  |
|    | 計         | 15.0 | 4.0 | 19.0 | 90.0   | 109.0 | 30.0 | 12.0   | 4.0 | 46.0 | 155.0 |

(注) 特許性項目抽出は, 「アイデアメモ作成」に含めた。

### 図 3 作業内容別担当者別工数一覧

作業実績の全体計=155.0 と見積式から算出される数値とを比較してみよう。

【最小】特許抽出工数 (見積式) =  $(10 \times 1.5 + 100 \times 1.5 \times 1.2) \times 0.8 \times 1.0 = 156.0$

【最大】特許抽出工数 (見積式) =  $(10 \times 2.0 + 100 \times 2.0 \times 1.5) \times 0.8 \times 1.0 = 256.0$

結果的に, 最小で見積もった値に近い実績値である。多くの IP リエゾンが関与することで, 最小値に近づいたと推測される。

##### 4. 2. 3 見積工数の数式化における課題

特許抽出作業工数は, アイデア毎に異なり, 見積工数を数式化することは難しい。そこで, 作業項目・内容毎に「係数」を設定し, 算出工数に, ある程度の幅を持たせた。今後は, 数多くのアイデアに適用し, 振れを少なくするよう, 係数の詳細化 (例: シニア IP リエゾンの場合=1.0, ジュニア IP リエゾンの場合=1.5, など) が必要である。

#### 4. 3 各係数の設定根拠

##### 4. 3. 1 アイデアメモ作成係数

発明者が作成する場合を, 「1.0」とし, IP リエゾン以外の者が作成する場合の係数を, 「1.5~2.0」とした。また, アイデアメモは, 1~2 頁のボリュームであることから, 発明者以外の IP リエゾンも一般の開発者も, 大差はないと考えた。

##### 4. 3. 2 明細書原稿作成係数



同様に、発明者が作成する場合を、「1.0」としたが、明細書原稿は、20～30 頁程度のボリュームであり、特許推進経験の有無により、差が出ることを考慮し、IP リエゾンの場合、「1.5～2.0」とし、そうでない場合は、「2.5～3.0」とした。

#### 4. 3. 3 請求項係数

請求項数により、権利範囲を確定するまでに必要な工数が変化する。請求項数 $\leq 5$ を「1.0」、 $6 \leq$ 請求項数 $\leq 10$ を「1.2～1.5」、請求項数 $\geq 11$ を「1.7～2.5」と設定した。

#### 4. 3. 4 公知調査係数

発明者が作成する場合を、「1.0」とし、特許推進・生産経験の有無により、差は出るものの、明細書原稿ほど差は出ないと考え、IP リエゾンの場合、「1.0～1.5」とし、そうでない場合は、「1.5～2.0」とした。

#### 4. 3. 5 社内手続係数

アイデアメモ作成係数と同様の考え方により、設定した。

#### 4. 3. 6 参考情報係数

参考情報がない場合を、「1.0」とし、提案書がある場合を、「0.9」、更に詳細な仕様書がある場合を、「0.8」と設定した。また、参考情報の有無は、ほかの係数に比較し、アイデアメモ作成、明細書原稿作成、社内手続の作業全体に影響を与える重要な因子であるため、全体に対して乗じる形式とした。

#### 4. 3. 7 出願経験係数

出願経験件数=2 件以上の場合、「1.0」とし、1 件ある場合、「1.1」、経験無しの場合、「1.2」とした。また、この係数も、参考情報係数と同様の考えにより、全体に対して乗じる形式とした。

## 5. 特許生産 WG の運用手順

特許抽出活動において、特に「生産活動」に注力したタスクフォースを「特許生産 WG」と筆者が命名した。「推進活動」との相違点を明確に表現したものである。

### 5. 1 特許生産 WG の参加条件と対象業務

特許生産 WG 開始前と終了後では、アイデアが育っていることが必須条件である。そのため、「賛成意見や、便乗意見は歓迎する」、「反対意見や否定的な意見を述べる場合は、代替意見を示す」、「反対意見や否定的意見のみは、敬遠する」以上の3つが、参加条件である。また、特許生産 WG の対象とするアイデアに対し、「A：開発中の業務の中からの抽出」、「B：近い将来、開発対象となる可能性が高い業務の中からの抽出」、「C：開発対象となるためには、しばらく時間がかかる業務からの抽出」により、抽出優先度を三段階に分けるとよい。

### 5. 2 「発想 100 本ノック記入シート」の作成

ブレインストーミングの変形で、「発想 100 本ノック」により、アイデア抽出を試みた。これは、野球の「1,000 本ノック」のように、次から次へと発想が湧いてくる状態を連想し、アイデアが創造され易い環境に身を置くことで、特許が生産されることを狙い、「特許生産 WG」と同様、筆者が命名したものである。その内容について述べる。

| 概念図  | 項目             | 〇〇殿  | 〇〇殿IDCセンタ   | ～ |
|--|----------------|--|---|---|
| <p>従来のシステム概念図(ビジネスプロセス)</p>  | 従来システムにおける課題   | <p>①データ作成者がブラウザで修正可能である。</p> <p>②グループ各社の中には、××リース、△△信販、等がある。</p> | <p>①グループ各社と〇〇殿で、Web参照機能は有る。</p> <p>②競合他社との差別化を画策する。</p> | ～ |
| <p>新規のシステム概念図(改善・工夫後のビジネスプロセス)</p>   | 新規システムでの改善・工夫点 | —  | <p>①表示順序(請求金額の高い順、督促回数が多い順)が選択できる。</p>                  | ～ |
| <p>「発想100本ノック」の手順</p> <p>①資料は事前配布しておく。</p> <p>②参加者紹介・役割分担の確認</p> <p>③手順を確認後、強度を決定</p> <p>：</p> | 新規システムでの効果     | —  | <p>①請求金額合計&gt;口座残高の場合～影響範囲を最小限に抑えられる。</p> <p>：</p>      | ～ |

図4 「発想 100 本ノック記入シート」

従来のシステムとアイデア提案するシステムとを対比させ、相違点を明確にし、「発想 100 本ノック記入シート」に記入する。主な対比項目は、「概念図(ビジネスプロセス)」、各プレイヤー間の「人・もの・金・情報の流れ」、「課題」、「工夫・改善点」、及び、「効果」である。

なお、手順に記載されている「強度」とは、発想 1 つに与えられた時間が短いほど、強度が強くなる。

### 5. 3 特許生産 WG 実施手順

- (1) 資料(記入シート、公知調査・分析・比較表、など)は事前配布しておく。
- (2) 参加者の紹介と役割分担(司会・板書・記録)を決定する。
- (3) 「発想 100 本ノック」の手順を確認し、時間配分を決定する。(1 発言当りの所要時間は、強度 A=2 人分、強度 B=5 人分、強度 C=10 人分)
- (4) 各自で、目標値を設定する。(平均値=100/参加人数)

(5) 発明代表者(または、現時点で最も詳しい人)が、従来のシステム概念図を描きながら、概略を参加者に説明する。

(6) 作成者が、類似アイデアとの機能比較表を説明する。

(7) 特許生産の「か行五段活用」を参考に、ブレインストーミングを行う。(か:課題, き:興味, く:工夫, け:研究, こ:効果)

#### 5. 4 「か行五段活用」

学生時代に習った「か行五段活用」とは違い、特許抽出時のポイントが、これに集約されている。いかなるアイデアであっても、まず「か:課題」を明確にする必要がある。課題に対し、解を導き出すことが、大前提となる。次に「き:興味」普段から、興味を持って、情報収集せねばならない。興味を持っておけば、情報に反応し易くなる。また、周囲の人達から協力も得易くなる。そして「く:工夫」1つの実現方法が公知となっても、更に効率良くできないか工夫する必要がある。それから、「け:研究」工夫の上に、研究を重ね、よりよいアイデアに仕上よう。最後に、「こ:効果」このアイデアが、産業界にどのような効果を与えられるか、吟味しよう。

ひとことで表現しづらい特許生産活動を、ひとことで「特許抽出には、か行五段活用」と言えば、要点が述べられているのである。

## 6. 今後の課題

二人三脚で特許生産活動を行うに当たり、抽出方法は、「特許生産 WG 方式」、発想の訓練方法として、「発想 100 本ノック」を実施してきた。活動実績を振り返ると、開催の都度の議事録、代表事例は事例集に纏まってはいるものの、「特許抽出のワークフローと如何に連携させるか」、具体的には、「開発業務のどのタイミングで適用するか」組織として活用できるよう体系立っていない。課題を纏めると次のようになる。

### 6. 1 特許管理システムの整備

アイデアの抽出から特許出願、更に審査請求から権利化に至るまでの社内手続きは、ワークフロー化され、担当部署のホームページで公開されているが、今後は、特に「特許管理システム」により、特許の抽出から出願、出願から審査請求、更に権利化までのステータス(進捗状況)をシステムで管理する仕組み作り、例えば、進捗が滞っている場合は、自動で督促メールが届けられる様な仕組みが必要と考えている。

### 6. 2 当面の課題

第1ステップとして、①「出願特許のステータスを確認できる」、②「発想アイデアが、いつでも誰でもメモできる」、③「皆さんで情報共有できる」、①～③を Web 上で実現する仕組み作りを行うことから始めたいと考えている。

### 6. 3 人材育成

IP リエゾンとして、自己啓発に努め、組織内への横展開、これから IP リエゾンになろうとしている人たちへの手助けをして行きたい。具体的には、「特許勉強会」を継続実施し、

勉強会のテーマも「ホットな情報」を取り上げようと考えている。

最後になるが今後とも、開発者との二人三脚活動を組織内に浸透させ、また、「特許管理の仕組」作り、「組織内のルール」作りを充実させ、当社の IP 推進活動に貢献して行く所存である。

## 7. おわりに

以上、私の IP リエゾン活動事例を述べてきたが、冒頭で述べたように、専任者で構成される知的財産部門を持たない企業にとって、知的財産活動、取り分け「特許抽出から出願までの活動」の参考になれば、甚だ幸いである。

最後に、私の所属する流通システム部の中沢部長、IP リエゾンでもある ISO 推進部の道正課長から、執筆に当り、ご指導いただき感謝しております。ありがとうございました。御礼申上げ、結びの言葉としたい。

## 参考文献

なし。